カトリック山形教会報
かすみ
4
2014.4.20

カトリック山形教会
〒990-0039　山形市香澄町2丁目11-15　TEL.023-622-3574　FAX.622-3590
ホームページ　http://www.catholic-yamagata.com/

復活徹夜祭に洗礼式と初聖体

長かった冬が終わり、ようやく山形にも桜の便りが届きました。このところの暖かさで一気に満開となるなか、喜びのうちに復活祭を迎えることができました。昨日の復活徹夜祭のミサでは、キリストの教えを学び、洗礼志願式を経た村川さんと国分さんが洗礼の秘跡を受けられました。また、奥十愛（とあ）ちゃんが幼児洗礼、奥来夢（らいむ）ちゃんが初聖体の恵みを受けられました。その中から村川さんと国分さんに、祈り、希望、分かち合いの信仰共同体、教会という家族の一員となり、これからの人生に本当の意味を与えるキリストとの出会いを喜びのメッセージに託していただきました。

原点に戻って

マグダレナ・ソフィア・バラ　国分容子

私がキリスト教と最初に出会ったのは、プロテスタントの幼稚園に通っていた頃です。それから、中学3年生、14歳になったばかりの時に縁があって、静岡県のカトリックの一貫教育の学校に入り、寄宿舎で過ごしました。

教会と修道院とお茶畑、目の前には富士山が…という素晴らしい環境でした。

しかし、毎日、祈りで始まり、祈りで終わり、学校の教育も全てが厳しすぎ、お祈りも強制されているようにしか感じられなかったのです。

当時は、1日も早く、ここから逃げたいと思っていたものでした。この経験は、私の人生の原点です。

その後も、いろいろな辛いことを乗り越える時にいつも思い出してきました。

今日、洗礼を受けさせて頂くことになる事に一番驚いているのは、私自身かもしれません。

長い間、私はイエス様から嫌われてしまったんだと思っていました。でも、15年前に、山形に戻って来てから、なぜか、この山形教会には、機会があれば来たいなという気持ちは持っていました。

様々な困難に遭い、やっと自分なりに乗り越えたなと思ったとき、ふと、何かの力で動かされ、気付いたときには、教会

3月23日（日）のミサで行われた洗礼志願式

4月19日（土）の復活徹夜祭のミサで洗礼式

洗礼式で本間神父から各自の霊名が読み上げられる

お母さんの腕の中ですやすや眠る十愛ちゃん

に来ていました。自分でも分からないのですが、遠藤周作さんの本を読んだ時に書いてあった言葉を思い出しました。神とかキリストとかいうのは、働きだと…。

私の背中を目に見えない何かが押してくれたという経験を何度かしてきましたので、まさしくその言葉どおりなのではないかなと思います。イエス様のお導きが受けられるよう歩んでいければ幸いです。

まだ、2年足らずですが、山形教会の御ミサに通い続けることができたのは、本間神父様はじめ、信者の皆様のおかげだと、本当に感謝しています。

よろしくお願いします

フランシスコ　村川裕大

今年の本間神父様への年賀状に「今年は絶対に洗礼を受けます」と書いていたら、お母さんから「どうして洗礼を受けることにしたの」と聞かれました。

色んな理由が頭に浮かんだけれど、僕は「信仰を持って生きていきたいから」と答えました。お母さんは「どうしてキリスト教を選んだの」と聞いてきました。僕は（お母さんもイエス様を信じているのに、なんでそんなことを聞くんだろう…）と思ったけど、じっと考えて、「イエス様はやりかえしたりしないから」と答えました。

僕は小さいときから言い争いや戦いごっことかが嫌いです。幼稚園の時の相撲大会もけんかみたいで嫌で、なかなか練習をしなかったと、お母さんに聞きました。今も初めてのことを挑戦することや競争することが苦手です。

教会に通うようになってから神父様やみんなと話をしながら、イエス様がいつも弱い人や病気の人に優しかったことをすごく大事なことだと思うようになりました。

洗礼の名前を決める時、お母さんがアッシジの聖フランシスコが動物や自然もとても大切にしたことを聞いたり、本を読んだりして、僕もこれから優しい気持ちを忘れないようにしようと思ってこの名前に決めました。

わからないことがたくさんありますが、どうかよろしくお願いします。

四旬節の黙想会
テーマ 和解の奉仕

■講師紹介
瀬本 正之（せもと まさゆき）
●研究テーマ／
キリスト教人間学、自己同化の哲学、環境の倫理・思想・霊性
●主な授業担当科目／
人間教育とキリスト教、自然科学とキリスト教、生圏の倫理等
●主な著書・論文等／
『環境倫理』（共著）北樹出版、『現代人間学』（共著）春秋社
●教育・研究活動／
「福音」に纏わる話や『霊操』のお手伝い等の「ことばの奉仕」の体験を、B. J. F. Lonergan の自己同化や A. N. Whitehead の有機体哲学やカトリック教会の社会教説から咀嚼するよう努めながら、科学的思惟を内包し得る「環境時代の霊性」を模索中である。

3月30日（日）、イエズス会の瀬本神父を招き、「和解の奉仕」をテーマに四旬節の黙想会が開かれました。

マタイ福音書、5章23-24節のイエスの山上の説教から「あなたが祭壇に供え物を献げようとし、兄弟が自分に反感を持っているのをそこで思い出したなら、その供え物を祭壇の前に置き、まず行って兄弟と仲直りをし、それから帰って来て、供え物を献げなさい。」という言葉を用い、

神様に感謝する供え物よりも、自分を悪く思っている者と仲直りすることが先である…。イエス様はどういう順番で生活を整えることが重要かを教える箇所になっています。

瀬本神父ご自身の体験から、高校時代の友人と些細なことから一年近く絶交状態になったことが話されました。

神戸にある六甲学院というイエズス会の学校におられたときのことです。自宅で友人と宿題をしていたとき、親戚に買ってもらったばかりのコンパスセットを見せびらかすように机に置き、自分は宿題に夢中になっていました。しばらく経って、そのコンパスセットに目をやると、そのセットのなかの一つにヒビが入っていることに気が付き、一緒に宿題をしていた友人を疑いました。彼がやったと決めつけたため、友人は怒って帰ってしまいました。でも、これは罪だと気づき、次の日、登校時に謝らなくてはと彼の家を訪ねましたが、彼はすでに学校へ行っていました。

学校で彼を見かけ、謝ろうと思い「おはよう」と声をかけましたが彼は私を避けました。翌日も同じでした。それが、3ヶ月続き、もう彼を誘うこともなくなりました。そして、約1年が経ったころ、「そうだ、電話で謝ろう。」と、何故か思いつきました。電話をすると彼の妹が出ました。彼女がお兄さんを呼びに行っている間、受話器を置こうかとも思いました。彼が電話に出ると「1年前は疑ってごめんね」と言い、彼は「そんなこともあったなぁ」と言ってくれました。彼はその電話に出なくてもよかったはずですが出てくれて、謝った自分を許してくれた。とても嬉しかった、そして不思議だった。神様がこのアイディアをくれたのかもしれません。彼との仲直りを勧めてくださったのかもしれません。

もし、私がこの聖書の箇所を心に刻んでいなかったら、この友人を失っていたかもしれません。

神様は、私たち人間同士の仲直りをとても重く受け止めています。神様に感謝と賛美を捧げることは私たちクリスチャンの根本です。神様に捧げ物をすることを完成させる意味でも仲直りをすることはとても大切なことです。

「和解の奉仕」とは、神様がイエス様を人間の形でこの世に遣わされ、死をもって人々の罪の許しを願い、神との和解を行ったことです。私たちも人と人、人と神、人と自然の和解をつなぐ橋（手伝い＝奉仕）になるため、よろこんで用意ができている信者でありたいと思います。

（記録／広報部　ヨハネ・小林雅人）

フォトグラフ

クリスティーナさん洗礼式　3月9日（日）
教会で侍者のお仕事をしていただいている。クリスティーナ・スタッツバックさんが洗礼と初聖体の秘跡を受けられました。洗礼式を終えて、ご両親たちと一緒に写真をパチリ!

お別れのあいさつ　3月23日（日）
Sr.ミシュリン、Sr.木田、修練者・稲江さんから、お別れのあいさつがありました。Sr.ミシュリンは一関へ、Sr.木田と稲江さんは横浜へ異動となりました。新任地でのご活躍をお祈りいたします。

聖週間始まる　4月13日（日）
受難の主日（枝の主日）から聖週間が始まりました。イエスのエルサレム入城を民衆が棕櫚（しゅろ）の枝を道に敷いて歓迎したことを記念し、枝の祝別後、十字架を先頭に聖堂に入堂しました。

山形を去られたシスターからのメッセージ

本間神父様、そして信徒の皆様へ

山形で20年以上過ごしてきた私にとって山形を離れることはとてもつらいことでした。山形はまさしく私にとっての“ふるさと”だからです。皆様の親切、寛大さそして暖かい迎え入れに感謝しています。本当にたくさんの思いやりをいただき、豊かにされました。すべてに感謝しています。大好きな山形教会！　神さまが皆様を祝福し、心と体の健康を与えて下さいまるように！ 主においていつも一つ！

（シスター　ミシュリン・ウィメット）

＊　＊　＊

山形で修練に入り、それまでの「動の生活から、「静の生活に切り替わりました。自然に囲まれた、静かで豊かな山形の環境は、祈りの生活に最適でした。

祈りの中で、自分を見つめ、これまでの歩みと現在の自分、そしてこれから進むべき方向について、主イエスとゆっくり話しをすることができました。不思議なほどに、本間神父様がなさる説教が、その直前の祈りに呼応していました。

小教区の皆様とは、ミサ、祈りの分かち合い等の祈りの場のみならず、様々な行事でも関わりを持つことができました。山形の小教区は、都心に見られる、社交場のような共同体とは全く異なる、自然体で飾らずに、互いを思いやりながら親しく接する、真の共同体であると感じました。それが集会祭儀に大変よく表れていると思います。奉仕者も参加者も、全ての方が生き生きと参加する様子は、いつまでも心に残ると思います。

山形の小教区は、私にとって間違いなく、霊的な故郷となりました。

修道者として、山形に戻って来たいと勿論望みますが、どこにいても心の中で、豊かなイメージを保ち続けると思います。本当に、ありがとうございました。

（修練者　稲江佐和子）

＊　＊　＊

今回の山形への派遣は、修道会責任者の役割、東日本大震災後の絶え間ない支援活動から離れて、「全く違う生活に入った」と言えるものでした。生活の変化に、はじめは戸惑いもありましたが、本間神父様、教会共同体の皆様に受け入れていただき、新たな歩みへと向かっていけたことにとても感謝しています。志願者だった稲江さんが、山形の地で修練期に入ったことも大きな喜びでした。皆様のお祈りにどんなに支えられていたでしょう。

この2年間、信仰は、呼びかけと応えであることを再体験したように思います。修道者、信仰者として絶えず関わるよう呼ぶイエスに自分なりに応える、こちらも日々の中でイエスに呼びかけ、限界を持ちながらもその応えを受け取ろうとするという呼応です。本間神父様から声をかけていただき、山形に来ることができました。そして信徒の皆さん、洗礼を望む人々、教会の仲間たち、聖マリアの職員や子どもたち、お母さん方と声をかけ合う（呼応する）ことでつながっていきました。大きな恵みでした。

山形共同体が、あらゆる年齢、状況、国の人が、一緒に神の呼びかけを聞き、互いが声をかけ（呼びかけ）、応え続ける共同体でありますように祈っています。

あざみ野にもぜひいらして下さい。待っていま～す！

（シスター　木田まゆみ）